

■ 2) 説明 5 点

▼行事名 子どもがつくるまち むさしのミニタウン
▼団体名 子どもの参画をすすめる会 子どもが作るまち・むさしのミニタウン実行委員会
▼開催開始年月日、主な開催期間 2007年3月24日(土) 10:00~16:00 ・25日(日) 10:00~15:00
▼参加人数(2日間の延べ人数) 幼稚園生以上中学生まで 1035人 おとな村民登録(入村者) 309人 おとなスタッフ(高校生以上) 122人
▼特徴 ・「サイコー！」の言葉が並んだ実行委員会の子どもたちの感想にもあるように、何よりも子どもたちが楽しんだ。若者も、おとなも充実して互いに出会い、出会いなおした。(もちろん、楽しめなかった子がいたり、反省点はあったが・・・) ・先頭集団の子どもたちが中学1年であったこと。 ・地域に根ざす(中心の子どもたち、おとなたち、会場、宣伝対象など)、日常的なスタイルであったこと。(例えばワークショップのファシリテーターも地域の中から、〇ちゃんのお父さんだったり、事務局は△君のお母さんだったり、お昼を作ってくれるのは地域のおばちゃんだったり) 地元小学校校長先生のご理解をいただいたことから、小学校を会場として2日間お借りした。前日、初日準備したものをそのままにしておける利点があった。 ・中心を担った事務局は大半が子どもたちの親の年齢であり、実行委員会の子どもや親たちとも比較的近い関係にあった。けやきコミセンを拠点とする地域活動の経験を持っていたとは言え、資金調達は始めて、書類作りは苦手、あるときは子連れ、ある時は介護、のアナログ主婦集団である。当然そのための長所・短所を併せ持つ。 ・実行委員会は小5年から中学生まで徐異年齢集団、市民・スタッフは3歳から80歳代までの文字通りの多世代協働のまちづくりが実現した。 ・地域に日頃から蓄積された総合的なまちづくりの力に助けられた。有形無形の[子どもへのまなざし]を感じる事が出来た。同時に、今回の開催が今後のまちづくりの力になっていくことは確実。
▼準備(体制、期間) コアメンバー(事務局6名)が「子どもの参画をすすめる会」をたちあげ、そこが実行委員会をよびかけ発足。実行委員会の役員(子ども5人)と事務局(おとな6人)が合同委員会を持ったこと、意思の疎通、状況の把握、共通理解がすすみ互いに有効性を確認している。 2006年11月実行委員会発足まで足掛け3年、本格活動開始(ミニさくらバス研)が2006年3月。以後ワークショップ等。11月実行委員会発足。試行錯誤、迷走の1年。